

第33期第2四半期（自 令和元年7月1日 至 令和元年9月30日）

四半期報告書

- 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく四半期報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、令和元年11月6日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものです。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された「四半期レビュー報告書」及び「確認書」を末尾に綴じ込んでいます。

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
第33期第2四半期 四半期報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	3
1 【主要な経営指標等の推移】	3
2 【事業の内容】	4
第2 【事業の状況】	5
1 【事業等のリスク】	5
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
3 【経営上の重要な契約等】	8
第3 【提出会社の状況】	9
1 【株式等の状況】	9
(1) 【株式の総数等】	9
(2) 【新株予約権等の状況】	9
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	9
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	9
(5) 【大株主の状況】	10
(6) 【議決権の状況】	11
2 【役員の状況】	11
第4 【経理の状況】	12
1 【四半期連結財務諸表】	13
(1) 【四半期連結貸借対照表】	13
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	15
【四半期連結損益計算書】	15
【四半期連結包括利益計算書】	16
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	17
2 【その他】	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	23

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和元年11月6日
【四半期会計期間】	第33期第2四半期（自 令和元年7月1日 至 令和元年9月30日）
【会社名】	東海旅客鉄道株式会社
【英訳名】	Central Japan Railway Company
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金子 慎
【本店の所在の場所】	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
【電話番号】	(052)564-2620
【事務連絡者氏名】	総務部株式課長 坂野 和徳
【最寄りの連絡場所】	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
【電話番号】	(052)564-2620
【事務連絡者氏名】	総務部株式課長 坂野 和徳
【縦覧に供する場所】	東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部（注） （名古屋市中村区名駅一丁目3番4号） 東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部静岡支社 （静岡市葵区黒金町4番地） 東海旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部 （東京都千代田区丸の内一丁目9番1号） 東海旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部関西支社 （大阪市淀川区宮原一丁目1番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注） 東海鉄道事業本部は、法定の縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としています。

第一部【企業情報】

記載の金額については、消費税等を含んでいません。

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第2四半期 連結累計期間	第33期 第2四半期 連結累計期間	第32期
会計期間	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
営業収益 (百万円)	918,127	955,611	1,878,137
経常利益 (百万円)	351,840	369,215	632,653
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	244,727	257,533	438,715
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	249,115	262,129	446,213
純資産額 (百万円)	3,322,355	3,757,904	3,508,065
総資産額 (百万円)	9,066,490	9,388,495	9,295,745
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	1,249.37	1,313.04	2,238.95
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	36.3	39.6	37.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	276,279	302,361	600,319
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△245,649	△131,387	△597,502
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	18,388	△57,296	△33,635
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	831,472	865,313	751,636

回次	第32期 第2四半期 連結会計期間	第33期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日	自 令和元年7月1日 至 令和元年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	623.03	643.32

(注) 1 各期の連結子会社数及び持分法適用会社数は次のとおりです。

回次	第32期 第2四半期 連結累計期間	第33期 第2四半期 連結累計期間	第32期
連結子会社数	29	29	29
持分法適用会社数	2	2	2

- 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業内容について、重要な変更はありません。
また、主要な関係会社に異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況及び財政状態

当社グループは、事業の中核である鉄道事業における安全・安定輸送の確保を最優先に、サービスの一層の充実を図るとともに、社員の業務遂行能力の向上、設備の強化、設備投資を含めた業務執行全般にわたる効率化・低コスト化等の取組みを続け、収益力の強化に努めました。

東海道新幹線については、大規模改修工事や脱線・逸脱防止対策をはじめとする地震対策を引き続き推進したほか、「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、需要にあわせたより弾力的な列車設定に取り組みました。また、N700A（3次車）の投入を進めるとともに、引き続きN700S確認試験車による走行試験を実施しました。

在来線については、名古屋工場の耐震化等の地震対策、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。

営業施策については、東海道・山陽新幹線のネット予約・チケットレス乗車サービスである「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのおお客様にご利用いただくための取組みを実施し、9月には「スマートEX」の登録者数が300万人を超えました。また、沿線の観光資源の魅力を活かした営業施策を推進するなど、ご利用拡大に向けた取組みを積極的に展開しました。

超電導磁気浮上式鉄道（以下「超電導リニア」という。）による中央新幹線については、工事実施計画の認可を受けた品川・名古屋間について、地域との連携を密にしながら、測量、設計、用地取得を進めるとともに、名古屋駅東山線工区や中間駅として初めてとなる神奈川県駅（仮称）等で工事契約を締結しました。また、これまでに工事契約を締結した工区において、地域にお住まいの方々へ工事概要や安全対策等についてご説明するための工事説明会を開催したほか、南アルプストンネル静岡工区については、引き続き工事作業員等の宿舍施設の建設を進めるとともに、静岡市と中央新幹線の建設に伴う林道東俣線の改良工事等に関する協定書を締結するなど、今後の工事着手に向けた準備に取り組みました。工事については、新たに神奈川県の大蔵非常口及び愛知県の第一中京圏トンネル西尾工区で本格的な工事に着手しました。既に工事に着手している南アルプストンネル山梨工区では斜坑、先進坑及び本坑の掘削、長野工区では斜坑及び先進坑の掘削を進めるとともに、品川駅及び名古屋駅では工事桁等を施工したほか、山岳トンネル、都市部非常口等で工事を着実に進めました。引き続き、工事の安全、環境の保全、地域との連携を重視して着実に取り組みます。

一方、山梨リニア実験線においては、営業線仕様の車両及び設備により、2編成を交互に運用して、引き続き長距離走行試験を実施することなどにより、営業運転に対応した保守体系の確立に向けた実証等を進めるとともに、超電導リニア技術のブラッシュアップ及び営業線の建設・運営・保守のコストダウンに取り組みました。また、営業車両の仕様策定に向け、L0系をさらにブラッシュアップさせた改良型試験車の製作を進めるとともに、改良型試験車の投入も見据え必要な走行試験を着実に行う中で、「超電導リニア体験乗車」を実施し、多くの方々に速度500km/h走行を体験していただきました。

海外における高速鉄道プロジェクトへの取組みについては、米国テキサスプロジェクトの事業開発主体に対し、現地子会社「High-Speed-Railway Technology Consulting Corporation」により技術支援を進めるとともに、現地子会社「High-Speed-Railway Integration Corporation」により日本側企業とともにプロジェクトのコアシステムの受注契約に向け、事業開発主体との協議等を行いました。また、引き続き超電導リニアシステムを用いた米国北東回廊プロジェクトのプロモーション活動を推進しました。加えて、台湾高速鉄道において技術コンサルティングを進めました。さらに、日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組みを推進しました。

鉄道以外の事業については、JRセントラルタワーズとJRゲートタワーを一体的に運営し、積極的な営業・宣伝活動を行うことで、収益の拡大を図りました。また、流通事業の活性化や駅商業施設のリニューアルを行い、競争力、販売力の強化に努めました。

さらに、経営体力の一層の充実を図るため、安全を確保した上で設備投資を含めた業務執行全般にわたる効率化・低コスト化の徹底に取り組みました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における全体の輸送実績（輸送人キロ）は、ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移したことから、前年同期比2.8%増の335億9千2百万人キロとなりました。また、営業収益は前年同期比4.1%増の9,556億円、経常利益は前年同期比4.9%増の3,692億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比5.2%増の2,575億円となりました。

当期の中間配当金については、4月に公表した配当予想のとおり、1株当たり75円とさせていただきます。

これをセグメントごとに示すと次のとおりです。

運輸業

東海道新幹線については、土木構造物の健全性の維持・向上を図るため、不断のコストダウンを重ねながら大規模改修工事を着実に進めました。地震対策については、脱線防止ガードの敷設を進めるなど、東海道新幹線全線を対象にした脱線・逸脱防止対策に取り組みました。また、「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、お客様のご利用の多い時期や時間帯に、需要にあわせたより弾力的な列車設定に努め、8月9日には一日の運転本数としては過去最多の436本を運転し、多くのお客様にご利用いただくとともに、令和2年春に予定している「のぞみ12本ダイヤ」の実現に向けた各種設備の改良に取り組みました。さらに、N700A（3次車）の投入を進めるとともに、既存車両に地震ブレーキの停止距離短縮等の3次車の特長を反映させる改造工事を9月に完了しました。令和2年7月に営業運転開始を予定しているN700Sについては、投入に向けた準備を進めるとともに、N700S確認試験車により、360km/hでの速度向上試験、バッテリー自走システム走行試験及び長期耐久試験を行いました。加えて、可動柵について、新大阪駅20～26番線ホームへの設置工事を進めるなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。

在来線については、名古屋工場の耐震化等に加え、高架橋柱の耐震化に着手するなど地震対策を引き続き進めるとともに、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。また、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行いました。さらに、可動柵について、金山駅東海道本線ホームへの設置に向けた準備を行いました。加えて、内方線付き点状ブロックの整備対象を乗降1千人以上の駅に拡大して取替を進めるなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。

新幹線・在来線共通の取組みとしては、自然災害や不測の事態等の異常時に想定される様々な状況に対応すべく実践的な訓練等を実施するとともに、G20大阪サミットの開催にあたり、関係機関と連携し、駅や車内等における安全の確保に努めました。また、地震対策として、駅の吊り天井の脱落防止対策を進めました。

営業施策については、東海道・山陽新幹線のネット予約・チケットレス乗車サービスである「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのお客様にご利用いただくために積極的な宣伝活動を行うとともに、「EXのぞみファミリー早特」をはじめとした観光型商品等の販売促進に取り組み、幅広く需要の喚起を図りました。また、京都、奈良、東京、飛騨等の観光資源を活用した各種キャンペーンやこれと連動した旅行商品を設定しました。さらに、JR6社で行う「静岡デスティネーションキャンペーン」を通じて、自治体や旅行会社等と連携し、魅力ある観光素材・商品の開発や観光列車の運行等に取り組みるとともに、「Japan Highlights Travel」、「Shippo」等を通じて地域との連携を強化し、お客様のご利用拡大に努めました。加えて、訪日外国人の利便性向上を図るため、東海道新幹線における無料Wi-Fiサービスの整備や在来線駅のトイレの洋式化を進めるとともに、ラグビーワールドカップ2019の観戦を目的とした訪日外国人に向けた商品の拡大及び販売促進等に取り組みました。

当第2四半期連結累計期間における輸送実績（輸送人キロ）は、ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移したことから、東海道新幹線は前年同期比2.9%増の287億6百万人キロ、在来線は前年同期比2.3%増の48億8千6百万人キロとなりました。

バス事業においては、安全の確保を最優先として顧客ニーズを踏まえた商品設定を行い、収益の確保に努めました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比3.2%増の7,484億円、営業利益は前年同期比4.2%増の3,871億円となりました。

また、運輸業の大部分を占める当社の鉄道事業の営業成績は次のとおりです。

区分	単位	前第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)			当第2四半期累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)				
		新幹線	在来線	合計	新幹線	在来線	合計		
営業日数	日	183	183	183	183	183	183		
営業キロ	キロ	552.6	1,418.2	1,970.8	552.6	1,418.2	1,970.8		
旅客輸送人員	定期	千人	7,800	138,125	144,706	7,891	139,122	145,761	
	定期外	千人	78,517	70,935	143,897	80,665	73,623	148,542	
	計	千人	86,318	209,060	288,603	88,556	212,745	294,303	
旅客輸送人キロ	百万人キロ	27,901	4,774	32,675	28,706	4,886	33,592		
旅客運輸収入	旅客運賃・料金	定期	百万円	9,203	17,972	27,176	9,317	18,064	27,382
		定期外	百万円	631,507	34,593	666,100	652,875	36,694	689,570
		計	百万円	640,710	52,565	693,276	662,193	54,759	716,952
	小荷物運賃・料金	百万円	—	4	4	—	2	2	
	合計	百万円	640,710	52,570	693,281	662,193	54,762	716,955	

(注) 旅客運輸収入の新幹線及び在来線区分は、旅客輸送計数により区分しています。また、旅客輸送人員の合計については、新幹線、在来線の重複人員を除いて計上しています。

流通業

流通業においては、「ジェイアール名古屋タカシマヤ」と「タカシマヤ ゲートタワーモール」が連携して、顧客ニーズを捉えた営業施策を展開することで、収益力の強化に努めました。また、駅構内の店舗においてリニューアルを実施したほか、品揃えの拡充等を通じて競争力を高めました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比3.5%増の1,320億円、営業利益は前年同期比8.1%増の46億円となりました。

不動産業

不動産業においては、「アスティ大垣」や「アスティ静岡東館」でリニューアルを実施するなど、競争力、販売力の強化に取り組みました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比3.4%増の402億円、営業利益は前年同期比6.4%増の113億円となりました。

その他

ホテル業においては、魅力ある商品の設定や販売力強化に取り組むとともに、「名古屋マリオットアソシアホテル」において、「コンシェルジュラウンジ」の改装を実施するなど海外からのお客様のニーズも踏まえたより高品質なサービスの提供に努めました。

旅行業においては、京都、奈良、東京、飛騨等の各方面へ向けた観光キャンペーン等と連動した魅力ある旅行商品を積極的に販売しました。

鉄道車両等製造業においては、鉄道車両や建設機械等の受注・製造に努めました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比17.1%増の1,119億円、営業利益は前年同期比13.8%減の35億円となりました。

また、当第2四半期連結会計期間末の資産残高は、前連結会計年度末から927億円増加し9兆3,884億円、負債残高は、前連結会計年度末から1,570億円減少し5兆6,305億円、純資産残高は、前連結会計年度末から2,498億円増加し3兆7,579億円となりました。なお、長期債務残高は、前連結会計年度末から492億円減少し4兆8,018億円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ1,136億円増の8,653億円となりました。

当第2四半期連結累計期間については、ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移し当社の運輸収入が増加したことに加え、法人税等の支払額が減少したことなどから、営業活動の結果得られた資金は前年同期と比べ260億円増の3,023億円となりました。

投資活動の結果支出した資金は、中央新幹線建設資金管理信託の取崩しによる収入が増加したことに加え、資金運用による支出（純額）が減少したことなどから、前年同期と比べ1,142億円減の1,313億円となりました。

財務活動の結果支出した資金は、長期債務の返済による支出が増加したことなどから、前年同期と比べ756億円増の572億円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は200億円となりました。

運輸業では、山梨リニア実験線において、営業車両の仕様策定に向け、L0系車両をさらにブラッシュアップさせた改良型試験車の製作を進めました。

運輸業以外のセグメントでは、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	824,000,000
計	824,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (令和元年9月30日)	提出日現在発行数(株) (令和元年11月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	206,000,000	206,000,000	名古屋証券取引所 東京証券取引所 各市場第一部	(注)
計	206,000,000	206,000,000	—	—

(注) 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
令和元年7月1日～ 令和元年9月30日	—	206,000,000	—	112,000	—	53,500

(5) 【大株主の状況】

令和元年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式（自己株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町二丁目11番3号	12,017,600	6.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海一丁目8番11号	9,916,200	5.03
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	8,642,300	4.39
野村信託銀行株式会社（退職給付信託三菱UFJ銀行口）	東京都千代田区大手町二丁目2番2号	7,125,000	3.62
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	6,678,100	3.39
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 日本生命証券管理部内	5,000,000	2.54
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	4,000,000	2.03
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	3,423,900	1.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	東京都中央区晴海一丁目8番11号	3,421,400	1.74
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町一丁目13番2号	3,350,000	1.70
計	—	63,574,500	32.27

(注) 1 上記のほか、当社は自己株式8,999,249株を保有しています。

2 平成31年4月19日付で公衆の縦覧に供されている株券等の大量保有状況に関する変更報告書において、三井住友信託銀行株式会社及びその共同保有者2名が、平成31年4月15日現在で12,895,300株を保有している旨が記載されていますが、当社として当第2四半期会計期間末日現在における当該法人の実質所有株式数の確認ができないため、上記では考慮していません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

令和元年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 8,999,200	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 17,000	—	
完全議決権株式(その他)	普通株式 196,947,500	1,969,475	—
単元未満株式	普通株式 36,300	—	—
発行済株式総数	206,000,000	—	—
総株主の議決権	—	1,969,475	—

(注) 1 証券保管振替機構名義の株式2,200株(議決権22個)は、「完全議決権株式(その他)」欄の株式数及び議決権の数に含まれています。

2 上記の自己保有株式には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」にかかる信託口が保有する株式は含まれていません。

② 【自己株式等】

令和元年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 東海旅客鉄道株式会社	名古屋市中村区名駅一丁目 1番4号	8,999,200	—	8,999,200	4.37
(相互保有株式) 株式会社交通新聞社	東京都千代田区神田駿河台 二丁目3番11号NBF御茶 ノ水ビル	17,000	—	17,000	0.01
計	—	9,016,200	—	9,016,200	4.38

(注) 上記の自己保有株式には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」にかかる信託口が保有する株式は含まれていません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（令和元年7月1日から令和元年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成31年4月1日から令和元年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	587,867	708,980
中央新幹線建設資金管理信託	※1 2,670,591	※1 2,509,149
受取手形及び売掛金	58,085	54,057
未収運賃	54,760	57,658
有価証券	158,300	153,700
たな卸資産	※2 46,358	※2 48,479
その他	54,792	48,509
貸倒引当金	△61	△30
流動資産合計	3,630,692	3,580,504
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,447,619	1,411,454
機械装置及び運搬具（純額）	240,018	229,331
土地	2,354,886	2,355,027
建設仮勘定	616,395	707,539
その他（純額）	47,753	41,757
有形固定資産合計	4,706,673	4,745,110
無形固定資産	77,571	76,043
投資その他の資産		
投資有価証券	676,420	781,595
繰延税金資産	170,574	169,889
その他	39,498	38,945
貸倒引当金	△5,685	△3,593
投資その他の資産合計	880,807	986,836
固定資産合計	5,665,052	5,807,991
資産合計	9,295,745	9,388,495

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	76,348	54,586
短期借入金	28,392	29,366
1年内償還予定の社債	—	10,000
1年内返済予定の長期借入金	110,493	69,065
1年内返済予定の株式給付信託長期借入金	5,400	5,400
1年以内に支払う鉄道施設購入長期未払金	5,444	5,612
未払法人税等	105,698	115,488
賞与引当金	28,716	28,491
その他	289,767	215,440
流動負債合計	650,260	533,451
固定負債		
社債	773,293	763,318
長期借入金	423,438	418,253
中央新幹線建設長期借入金	※1 3,000,000	※1 3,000,000
株式給付信託長期借入金	9,700	7,000
鉄道施設購入長期未払金	538,451	535,601
新幹線鉄道大規模改修引当金	140,000	122,500
退職給付に係る負債	194,347	193,938
その他	58,188	56,527
固定負債合計	5,137,419	5,097,139
負債合計	5,787,679	5,630,590
純資産の部		
株主資本		
資本金	112,000	112,000
資本剰余金	53,497	53,497
利益剰余金	3,387,569	3,630,328
自己株式	△116,912	△114,348
株主資本合計	3,436,154	3,681,477
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,024	34,928
繰延ヘッジ損益	—	△0
退職給付に係る調整累計額	2,116	2,000
その他の包括利益累計額合計	35,140	36,928
非支配株主持分	36,770	39,499
純資産合計	3,508,065	3,757,904
負債純資産合計	9,295,745	9,388,495

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)
営業収益	918,127	955,611
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	437,161	454,927
販売費及び一般管理費	※1 89,967	※1 93,810
営業費合計	527,128	548,737
営業利益	390,998	406,873
営業外収益		
受取利息	569	1,124
受取配当金	1,791	1,912
受取保険金	92	157
その他	1,800	2,070
営業外収益合計	4,254	5,264
営業外費用		
支払利息	22,687	22,339
鉄道施設購入長期未払金利息	17,808	17,650
その他	2,916	2,932
営業外費用合計	43,411	42,922
経常利益	351,840	369,215
特別利益		
工事負担金等受入額	1,396	689
関係会社貸倒引当金戻入額	—	2,082
その他	40	131
特別利益合計	1,437	2,903
特別損失		
固定資産圧縮損	1,391	664
固定資産除却損	885	1,102
その他	204	305
特別損失合計	2,481	2,072
税金等調整前四半期純利益	350,795	370,046
法人税等	103,633	109,559
四半期純利益	247,162	260,487
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,434	2,953
親会社株主に帰属する四半期純利益	244,727	257,533

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)
四半期純利益	247,162	260,487
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	397	1,840
繰延ヘッジ損益	7	△0
退職給付に係る調整額	1,504	△209
持分法適用会社に対する持分相当額	43	10
その他の包括利益合計	1,953	1,642
四半期包括利益	249,115	262,129
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	245,961	259,320
非支配株主に係る四半期包括利益	3,154	2,808

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	350,795	370,046
減価償却費	102,215	104,899
新幹線鉄道大規模改修引当金の増減額 (△は減少)	△17,500	△17,500
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	643	△373
受取利息及び受取配当金	△2,360	△3,036
支払利息	40,495	39,990
工事負担金等受入額	△1,396	△689
固定資産圧縮損	1,391	664
固定資産除却損	1,899	1,806
売上債権の増減額 (△は増加)	2,521	1,129
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11,975	△1,917
仕入債務の増減額 (△は減少)	△25,015	△21,761
その他	△23,829	△34,344
小計	417,884	438,913
利息及び配当金の受取額	2,119	2,919
利息の支払額	△40,269	△39,827
法人税等の支払額	△103,455	△99,645
営業活動によるキャッシュ・フロー	276,279	302,361
投資活動によるキャッシュ・フロー		
中央新幹線建設資金管理信託の解約による収入	103,920	161,442
有形固定資産の取得による支出	△167,590	△190,322
工事負担金等受入による収入	2,694	1,877
無形固定資産の取得による支出	△3,073	△3,646
投資有価証券の取得による支出	△180,201	△104,101
その他	△1,399	3,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	△245,649	△131,387
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,224	974
長期借入れによる収入	10,000	12,400
長期借入金の返済による支出	△20,300	△59,012
社債の発行による収入	38,950	—
鉄道施設購入長期未払金の支払による支出	△2,525	△2,682
自己株式の取得による支出	—	△0
自己株式の売却による収入	2,839	2,988
配当金の支払額	△13,790	△14,775
非支配株主への配当金の支払額	△79	△79
その他	2,069	2,889
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,388	△57,296
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	49,017	113,676
現金及び現金同等物の期首残高	782,454	751,636
現金及び現金同等物の四半期末残高	*1 831,472	*1 865,313

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当社においては、当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて税金費用を計算しています。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 中央新幹線の建設の推進のため、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構より資金を借り入れ、分別管理を目的として信託を設定しています。

※2 たな卸資産の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
商品及び製品	6,714百万円	7,082百万円
分譲土地建物	1,351	1,005
仕掛品	23,019	24,314
原材料及び貯蔵品	15,271	16,076

3 超電導リニアの技術開発促進を目的とする公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下「鉄道総研」という。）の長期借入金に係る連帯債務額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
	2,609百万円	2,058百万円

4 超電導リニアの技術開発促進を目的とする鉄道総研の長期借入金に係る債務保証額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
	13,400百万円	13,400百万円

5 社債の債務履行引受契約に係る偶発債務は次のとおりです。

	償還期限	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
第5回普通社債	令和2年1月28日	49,800百万円	49,800百万円
第6回無担保普通社債	令和4年2月15日	18,995	18,995
第7回無担保普通社債	令和4年5月10日	18,200	18,200
第9回無担保普通社債	令和4年9月20日	20,000	20,000
第11回無担保普通社債	令和4年12月20日	25,000	25,000
第12回無担保普通社債	令和15年3月18日	10,000	10,000
第13回無担保普通社債	令和5年12月20日	9,000	9,000
第14回無担保普通社債	令和6年3月19日	9,900	9,900
第16回無担保普通社債	令和元年9月20日	20,000	—
第17回無担保普通社債	令和6年9月20日	9,650	9,650
第18回無担保普通社債	令和2年3月19日	20,000	20,000
第24回無担保普通社債	令和8年5月22日	9,900	9,900
第32回無担保普通社債	令和9年9月17日	10,000	10,000
第34回無担保普通社債	令和9年12月20日	10,000	10,000
第35回無担保普通社債	令和2年4月24日	19,900	19,900
第44回無担保普通社債	令和元年6月19日	10,000	—
第49回無担保普通社債	令和2年2月10日	14,100	14,100
計		284,445	254,445

6 取引金融機関と締結している貸出コミットメントの総額と借入未実行残高は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
貸出コミットメントの総額	100,000百万円	100,000百万円
借入実行残高	—	—
借入未実行残高	100,000	100,000

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
人件費	44,980百万円	45,058百万円
(賞与引当金繰入額)	(6,827)	(6,927)
(退職給付費用)	(3,202)	(2,704)

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)
現金及び預金	661,149百万円	708,980百万円
有価証券	165,900	153,700
その他(流動資産)	4,422	2,632
現金及び現金同等物	831,472	865,313

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	13,790百万円	70円	平成30年3月31日	平成30年6月25日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金68百万円が含まれています。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年10月29日 取締役会	普通株式	13,790百万円	70円	平成30年9月30日	平成30年12月3日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金59百万円が含まれています。

当第2四半期連結累計期間(自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
令和元年6月21日 定時株主総会	普通株式	14,775百万円	75円	平成31年3月31日	令和元年6月24日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金54百万円が含まれています。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
令和元年10月28日 取締役会	普通株式	14,775百万円	75円	令和元年9月30日	令和元年12月2日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金44百万円が含まれています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	719,116	121,965	22,945	54,099	918,127	—	918,127
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,064	5,628	15,965	41,509	69,168	△69,168	—
計	725,181	127,594	38,910	95,608	987,295	△69,168	918,127
セグメント利益	371,651	4,330	10,649	4,122	390,753	244	390,998

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益の調整額244百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第2四半期連結累計期間(自平成31年4月1日至令和元年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	742,323	125,509	24,183	63,595	955,611	—	955,611
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,174	6,541	16,049	48,369	77,135	△77,135	—
計	748,497	132,050	40,232	111,965	1,032,746	△77,135	955,611
セグメント利益	387,142	4,680	11,326	3,554	406,704	168	406,873

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益の調整額168百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	1,249円37銭	1,313円04銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	244,727	257,533
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	244,727	257,533
普通株式の期中平均株式数(株)	195,881,391	196,135,669

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
2 普通株式の期中平均株式数からは、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」にかかる信託口が保有する当社株式(前第2四半期連結累計期間917,760株、当第2四半期連結累計期間663,463株)を控除しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

令和元年10月28日開催の取締役会において、第33期の中間配当に関し、次のとおり決議しました。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| (1) 中間配当金の総額 | 14,775,056,325円 |
| (2) 1株当たりの中間配当金 | 75円 |
| (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 令和元年12月2日 |

(注) 令和元年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年11月5日

東海旅客鉄道株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北方 宏 樹 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 晴 久 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加納 俊 平 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東海旅客鉄道株式会社の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（令和元年7月1日から令和元年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成31年4月1日から令和元年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東海旅客鉄道株式会社及び連結子会社の令和元年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。
2 XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和元年11月6日
【会社名】	東海旅客鉄道株式会社
【英訳名】	Central Japan Railway Company
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金子 慎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
【縦覧に供する場所】	東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部（注） （名古屋市中村区名駅一丁目3番4号） 東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部静岡支社 （静岡市葵区黒金町4番地） 東海旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部 （東京都千代田区丸の内一丁目9番1号） 東海旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部関西支社 （大阪市淀川区宮原一丁目1番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注） 東海鉄道事業本部は、法定の縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としています。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長金子慎は、当社の第33期第2四半期（自 令和元年7月1日 至 令和元年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。